

或者、尼に贈る歌二首

一六三三番

手もすまに 植ゑし萩にや かへりては 見れど  
も飽かず 心尽くさむ

一六三四番

衣手に 水洩付くまで 植ゑし田を 引板我が延  
へ 守れる苦し

尼、頭句を作り、并せて大伴宿禰家持、尼に  
詠へられて、末句等を継ぎて和ふる歌一首

一六三五番

佐保川の 水を堰き上げて 植ゑし田を  
刈れる初飯は ひとりなるべし